

令和7年度 小平市立花小金井南中学校 学校評価報告書

学校教育目標 豊かな心を養い 学力、体力の向上を目指し 未来へはばたく人物を育成する
 1. 心身ともに健全で自らを鍛え努力する人 1. 進んで学び 社会のために尽くす人 1. 認め合い 支え合う心優しい人

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ○一人一人を大切にできる学校
- 【目指す児童・生徒像】 ○自己実現のために努力する生徒 ○思いやりの心をもつ生徒
- 【目指す教員像】 ○生徒一人一人を大切に、伸ばそうとする教員 ○生徒、保護者、地域から信頼される教員

前年度までの学校経営上の成果と課題

成果 主体的、対話的で深い学びを実現し、学習者用端末を活用するなど、授業の工夫に取り組むことができた。CSとして分科会を立ち上げ、円滑なスタートができた。
 課題 各教科等が関連した学びを実現していく。いじめの防止や特別な支援の必要な生徒や家庭への支援を関係機関と連携して進めていく必要がある。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	○小グループの学び合いを行う。 ○「主体的に学習に取り組む生徒像」の視点で授業を参観し合う。	3	4	小グループの学び合いは定着しており、対話することや発表することをいとわない生徒の姿勢も育っている。一方で、保護者の回答は「わからない」が23.4%と多い状況であったことから、学校HP等で周知を図る。	3	4	・授業公開の際に、生徒も教員も前向きに熱心に授業に向き合っていることが分かる。 ・小グループ学習が定着しており、他人の意見に耳を傾ける機会として今後も上手に授業に取り入れてほしい。 ・端末の活用が教員の負担軽減になると思うのでさらに活用してほしい。	・小グループによる学び合いは継続し、発表や対話の機会を保障していくことで、主体的な学びを実現していく。
	○学習用端末を活用した個別最適な学びを支援する。 ○家庭学習を定着させるための手立てを行う。	3	3	学習者用端末の活用に関する研修を夏季休業中に実施できたことから、2学期以降のさらなる活用を目指す。	3	3		・授業における学習者用端末の活用については学年、教科を問わず定着しつつある。今後は家庭学習など、学習ドリルなどを活用した個別最適な学習の充実を図る。
健全育成	○学校行事や生徒会活動、学級活動において、リーダーシップ、フォローシップを尊重させる場面を設ける。	3	4	生徒会活動や運動会実行委員会、学校行事の実行委員会において、リーダーの主体的な活動を実現することができた。本校のよい学校文化としてさらなる展開を目指していく。	3	4	・積極的にリーダーシップを発揮し行事に参加する姿は南中の良い面である。作り上げる喜びをさらに体験させてほしい。 ・いじめ対策委員会の定期的な実施等で前向きに取り組んでいると思う。校外からいじめや悪ふざけの様子は見えていない。	生徒の自治的、自発的な活動を推進していく。そのためには、「ごだいら特別活動の日」の取組を契機として、話し合い活動の充実を目指す。
	○人権教育プログラムを活用し、いじめについての理解研修を年3回実施する。いじめ対策委員会を週1回行う。	4	2	いじめ対策委員会は週1回実施できた。いじめに関する研修を年度始めに実施し共通理解を図った。	4	2		組織的ないじめの未然防止のための研修を年度の始めに行う。成果指標「2」は「わからない」と回答した保護者が多かったことから、学校だより等で周知を図る。
業務改善・教職員の働き方改革	○学校行事の実施時間、練習、準備の時間を再構築する。 ○分掌の業務を再構築する。	3	2	運動会の種目を削減、変更し、時間的にゆとりのある練習、当日の運営ができた。例年よりも保健室の来室人数が大幅に減少するなどの効果があった。2学期以降の行事も丁寧に見直しを図る。	3	2	・学校行事は生徒の楽しみでもあるので、縮小だけでなく良い方向に進めてほしい。 ・生徒の模範となるような挨拶をしてくれる教員もいる。 ・夜遅くまで職員室の電気がついているのが気になる。	暑熱対策の必要性や学級数増が見込まれる中で、学校行事の精選の意識をもつことができた。成果指標「2」は改善に至った業務が満たなかったことによる。
	○明るい挨拶や返事を率先垂範し、温かく風通しのよい職員室運営を目指す。	3	2	教員間の対話やお互いを労う会話が見られ、明るい職員室となっている。挨拶や返事など生徒の率先垂範となるようさらなる高みを目指す。	3	2		教職員の間において、学年や学級、職務を越えた対話を目指し、居心地のよい職員室運営を行うことで、OJTを促進し、働き方改革の具現化を図る。
特別支援教育	○特別支援委員会を核としたSC、SSWと連携した組織的な対応を図る。 ○別室指導を組織的に行う。	4	1	週1回特別支援委員会にSC、SSWが参加し、必要な情報の共有ができていく。(SC、SSWの守秘義務の範囲内)別室指導については、必要な生徒が適切に利用できている。	4	1	・不登校の多さには驚いている。地域としてできることを手伝ってきたい。 ・不登校には様々な背景があるので、受け皿になる対策がどれだけ取れているのかなどを評価規準にしてもよいのではないかな。	不登校の出現率が前年度比で増となったことから成果指標は「1」である。一方で、別室の利用やSSWの家庭訪問が登校刺激となり、教室復帰につながった事例がある。今後も継続していく。SCの面談は常にスケジュールに空きがない状況であり、複数配置が望まれる。
	○あゆみ教室、ユッカ等との連絡を定期的に行う。	3	2	あゆみ教室やユッカへ生徒の来室に合わせて訪問したり、電話等で状況を聞き取ったり、定期考査を届けたりするなどの連携はあったが、学校全体として十分に連携が図れたとは言えない。	3	3		あゆみ教室やユッカの利用生徒が、関係職員からの支援により校内別室などにつながった事例もある。今後も情報の共有を大切にしていく。
特色ある教育活動	○障がい理解教育を年1回実施するとともに、通常の学級の教員が特別支援学級の活動に触れる機会を設ける。	2	4	障がい理解教育は実施できた。1学期の評価2を受け、生徒の交流及び共同学習を9月から新たな取組が実施できている。今後は教員の理解促進を図る。	3	4	・知的障がい特別支援学級が設置されている利点を生かしてもっと交流してほしい。	障がい理解教育は来年度も年度の始めに行う。通常学級の教員や職員が7組の給食に訪問する交流を実施できたことは成果である。今後も日常的な交流や障がい理解の促進の工夫を進めていく。
	○前年度までの活動を継続しつつ、地域や家庭に活動を周知する。	3	2	コミュニティスクールの活動は円滑に運営できている。保護者の評価は79.8%で評価3基準に0.2ポイント及ばなかった。今後、コミュニティスクールの委員と生徒との交流を目指し、学校だより等で周知する。	3	2		コミュニティスクールの活動は円滑に進められている。成果指標は79.8%で評価3基準に0.2ポイント及ばなかった。今後は学校便りや学校HPで理解促進を図る。